



日本の食料安全保障と不測時の対応 食品産業の視点から

2024年4月16日

日清食品ホールディングス株式会社

中井 敏雄

自己紹介

中井 敏雄

所属・役職

日清食品ホールディングス株式会社
執行役員CRO(グループ資材調達責任者)

経歴

1985年 サントリー(現サントリーホールディングス)に入社
2014年 日清食品ホールディングスに入社
2015年 執行役員CRO(現職)
2018年 プラスチック容器包装リサイクル推進協議会会長(現副会長)

業績等

サプライチェーン改革(在庫・コスト削減、業務改革、サプライヤーと取引DX化)
ESG・環境(飲料業界での段ボール削減、ペットボトルリサイクル/BtoB)
調達改革(共同調達スキーム立上、産地から工場までの一気通貫サプライチェーン)
農水省のプロジェクトにて1/3ルールの変革 など

本日の内容

（１）有事（災害）に備えた対策

（２）コロナ禍の際に実行した施策

（３）原料を調達する上でのリスク

（１）有事（災害）に備えた対策

① 優先供給品目の設定と供給継続プラン策定

- a) 平時からの在庫積み増し（鮮度管理が重要）
- b) サプライ拠点の複数化
- c) 原料在庫での保管（加工前原料の在庫確保）

② 有事発生時の被害状況の把握

- a) 有事発生時の資材供給工場の被災状況の把握
- b) 在庫情報の把握と資材供給計画の立案
- c) 海外子会社からの輸入

①自動でメール発報
②スマホ、PCでWebで回答可能

各拠点から状況を報告

情報が自動集計される

- ①自動で一覧表が作成される
- ②状況更新や催促がリモートで可能



地震発生時のサプライヤー被害状況収集

■ 資材サプライヤーとの情報交換



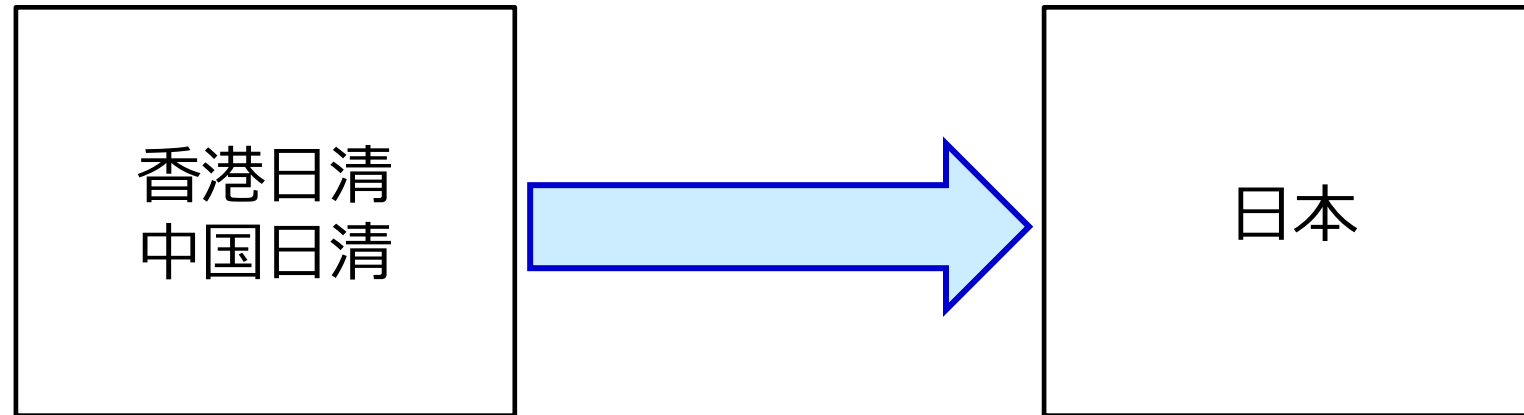
【週次】

- ①先行情報の共有（資材必要数の共有）
- ②必要数に対する供給可否返答
- ③計算在庫の共有

【月次】

- ④棚卸在庫の共有

日清食品の海外子会社からの緊急輸入の準備



【課題】

各国の食品安全基準が異なる（輸入不可）
※食品添加物など
日常での少量輸入による訓練も難しい

（２）コロナ禍の際に実行した施策

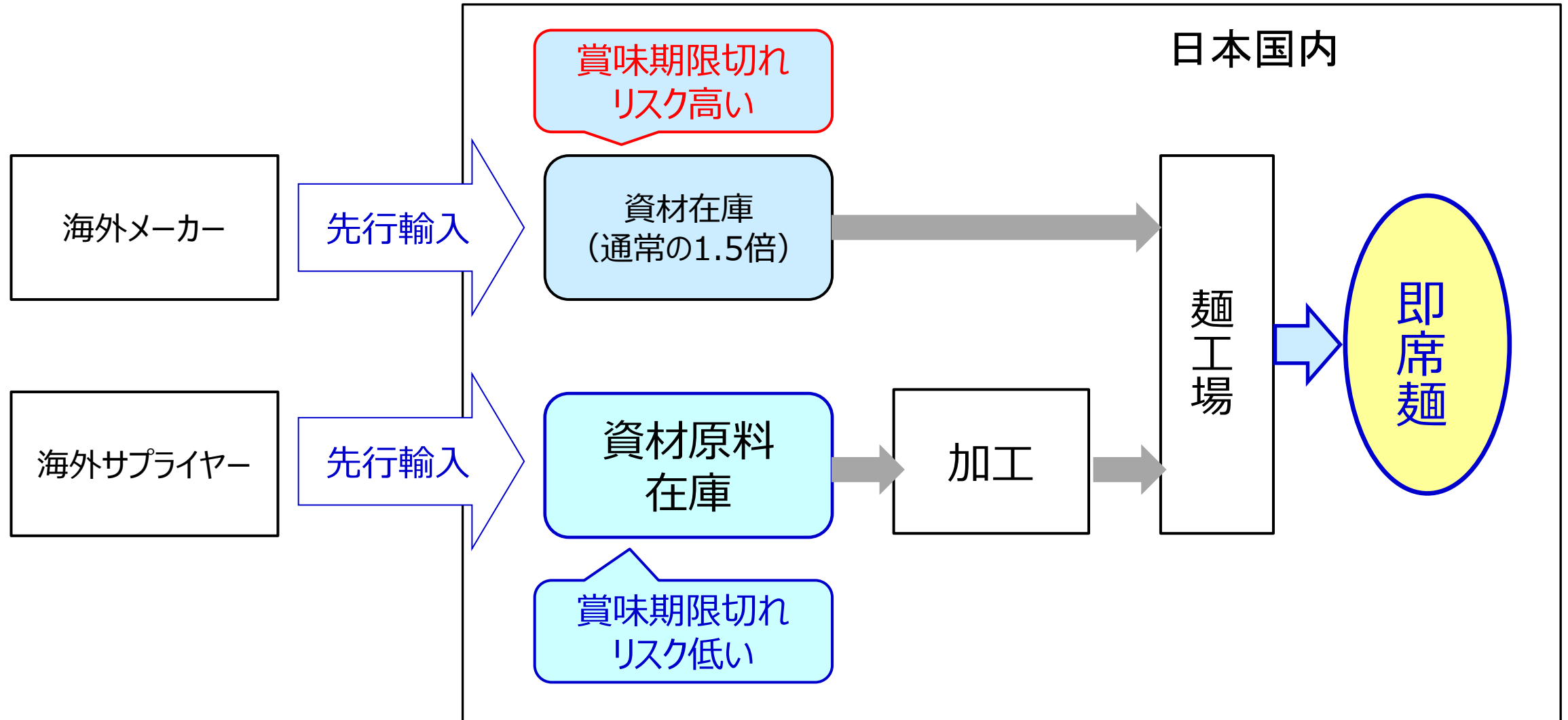
① 各資材工場の稼働維持（継続）

- ◆各国のコロナ対応が異なるため稼働停止を停止した工場もあった
- ◆人の動きが停止したためによる人手不足の発生（供給量減・価格高騰）

② 国内在庫の積み増し

- ◆ロジスティクスの混乱
- ◆港湾の人手不足、コンテナ不足による海運機能の大幅低下

在庫の積み増し



（３）原料を調達する上でのリスク

- －天候不良などによる不作
- －不採算による栽培品目の変更、人手不足による収穫量の減少
- －紛争、疫病による産地被害やロジスティクス能力の低下
- －海外政府の方針変更
- －環境規制による供給量削減
- －種子の変更による品種・品質への変更（遺伝子組換えなども含む）
- －企業の撤退
- －ジャパンプレミアム（コスト増）



以上